中越の魅力発見
～風景（景観）診断調査・ワークショップ～

よりみち街道『中越』クラブ
代　表　鎌田　豊成
事務局　玉木　賢治

はじめに

新潟県中越地震は、日本の約 70%とも言われる中山間地域を襲った象徴的な自然災害であり、地域の社会基盤は壊滅的状態となった。近年の少子高齢化・核家族化が進んでいる最中の被災でもあったため、中心市街地以外の地域では、一層の活力低下が予想された。

被災直後、現地の調査に入った「土木学会・第二調査団（団長：家田 仁 東京大学大学院教授）」による調査結果と緊急提言の中で、当該被災地は「我国の一つの原風景というべき景観が広がっている。」「暮らしの文化や風景は、国民にとって大きな価値ある資産である。」と地域景観の評価をしたうえで、「被災山村の風景と文化の価値に着目した復興」としてシーニックバイウェイの考え方を導入した復興を提言した。これを受け、地域や自治体が被災をきっかけに、懸命に復旧と復興に向けて取り組む時、壊れた道路をただ復旧するだけでなく、“創造的復旧”と言われるように、「道」を通じて被災地域の復興や活性化を支援するためには、「何ができるのか？」「何をしなければならないのか？」ということを地域と一体となって考える気運が高まってきた。

１．調査の背景と目的

よりみち街道『中越』クラブ（以下、よりみちクラブと略称する。）は、新潟県中越地震からの地域の復興と活性化を道から支援することを目的とした“よりみち街道『中越』プロジェクト”の推進母体として設立した組織体である。

人がつながる　道でつなげる

よりみちクラブは、土木学会・第二調査団の提言を受け、シーニックバイウェイの考え方を導入し、当該被災地の復興に役立つため、地域活動団体・企業・大学・地域行政・道路管理者の各関係機関によって構成され、平成 18 年 6 月に設立したパートナーシップであり、現在、国土交通省が進めている「日本風景街道」の施策を実践するものである。

よりみちクラブは、次のような活動を通じ、組織が目標とする被災地域の復興と活性化に向け、取り組んでいるところである。

◇現地での道路植栽支援活動

◇ホームページ等を用いた地域情報の発信

◇被災地ガイドマップの作成

◇被災地域のフォトコンテスト及び優秀作品を用いた復興支援カレンダー製作

植栽支援活動

HP での情報発信

復興支援カレンダー製作

なお、個々の参画団体による地域活動においても、鋭意活動を展開中である。

このような状況の中、組織活動の重要な柱として「地域への来訪者と地域（資源、人、文化等）との交流を促進する」ことに取組み、今後の更なる活動展開を見出していくこととし、次の目的で本調査を行うこととした。

【本調査の目的】

①よりみちクラブが扱う被災地域資源の「整理把握」

地域への来訪者と地域を結ぶため、被災地域の資源として「何があるのか？」ということの情報収集を行い、資源の抽出及び整理をする。

②よりみちクラブが扱う被災地域資源の「価値の共有」

よりみちクラブは「どのような資源を用いるべきか？」ということをワークショップの中で議論することにより、その地域資源の価値を共有する。

③地域資源を活用するために必要な取組みの「共通認識」

ワークショップにより、よりみちクラブが扱う資源（よりみち資源）を如何にして活用し、如何にして来訪者との接点を作り出していくかといった手法について議論することにより、共通の認識を得る。

２．調査方法と調査結果

本調査は、以下の手順によって行った。（実施期間：H19 年 10 月 15 日～11 月 4 日）

☆STEP１：クラブ会員からの情報収集

クラブ会員を対象に、被災地域の資源に関するアンケート及び聞き取り調査を行い、有効と思われる地域資源を抽出した。抽出した“よりみち資源”を以下に示す。

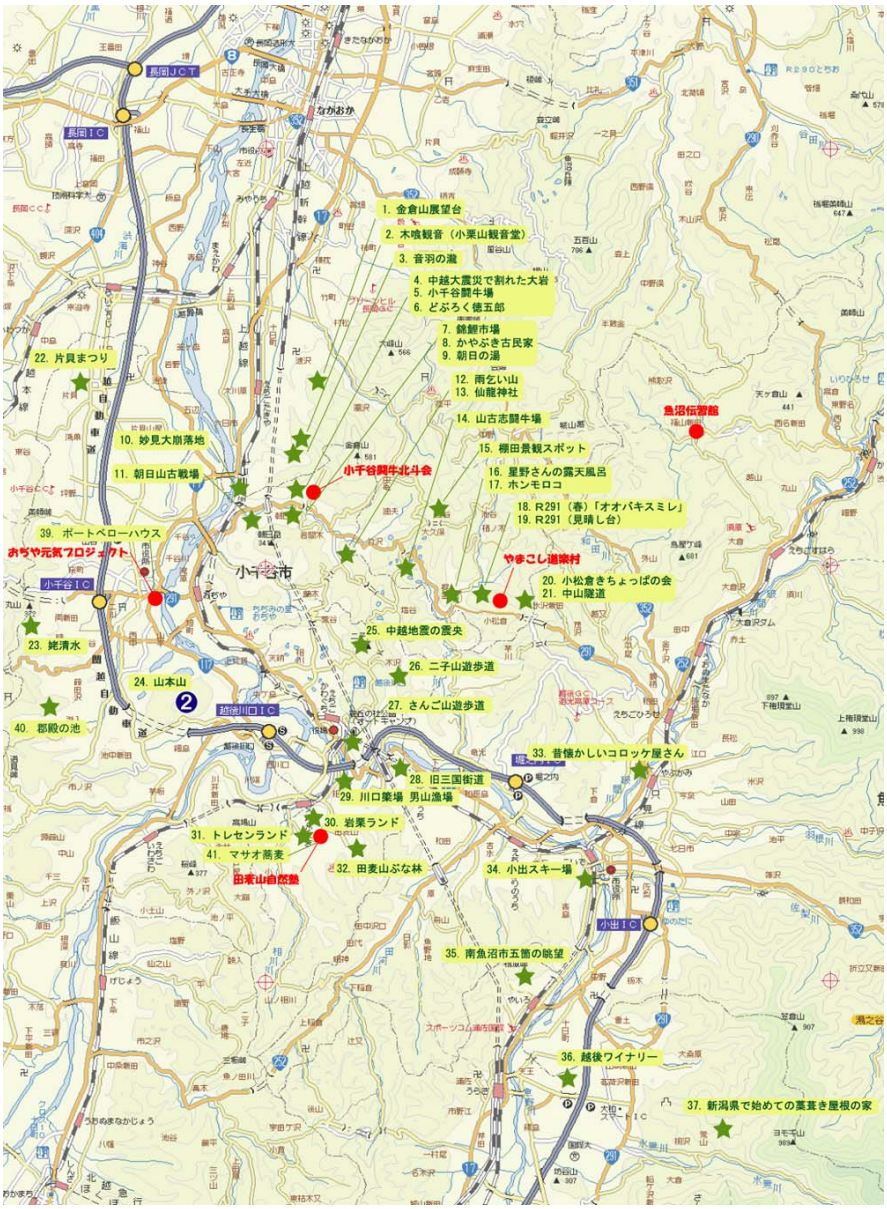
1	風景	●金倉山
2	立寄り	●木喰観音（小栗山観音堂）
3	立寄り	●名水「音羽の滝」
4	立寄り	●中越大震災で割れた大岩
5	立寄り	●小千谷闘牛場

6	食	●どぶろく徳五郎
7	立寄り	●錦鯉市場
8	立寄り	●かやぶき古民家
9	立寄り	●朝日の湯
10	地震	●妙見大崩落地
11	立寄り	●朝日古戦場
12	風景	●雨乞い山（塩谷地区）
13	立寄り	●仙龍神社
14	立寄り	●山古志闘牛場
15	風景	●棚田景観スポット
16	立寄り	●「星野さんの露天風呂」（竹沢）
17	食	●「ホンモロコ」（竹沢）
18	立寄り	●Ｒ291（春）「オオバキスミレ」
19	風景	●Ｒ291（見晴らし台）
20	立寄り	●「小松倉きちょっぱの会」
21	立寄り	●「中山隧道」
22	祭礼	●片貝まつり（浅原神社祭礼）
23	立寄り	●姥清水
24	風景	●山本山
25	地震	●中越地震の震央
26	風景	●二子山遊歩道
27	風景	●さんご山遊歩道
28	立寄り	●旧三国街道
29	食	●川口築場　男山漁場
30	立寄り	●岩栗ランド
31	立寄り	●向山ランド（トレセンランド）
32	風景	●田麦山ぶな林
33	食	●「昔懐かしいコロッケ屋さん」（旧広神村）
34	風景	●小出スキー場
35	風景	●南魚沼市五箇の眺望
36	食	●越後ワイナリー
37	立寄り	●新潟県で始めての藁葺き屋根の家（南魚沼市荒山）
38	食	●美味しいうなぎ料理（川上うなぎ店）
39	食	●ポートベローハウス（ＯＧＰ事務局）
40	立寄り	●郡殿の池
41	食	●マサオ蕎麦

☆STEP２：クラブ会員による「街道診断」

抽出した“よりみち資源”を対象とし、クラブ会員による現地での街道診断を行った。

なお、クラブ会員から寄せられた“よりみち資源”は、著名な観光スポット等とは異なり、極めてローカルな資源であることから、各資源の説明を案内人から受けながら現地での街道診断を行った。

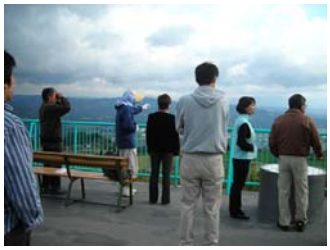


資源例：姥清水

資源例：昼食（特製いいとも弁当）

資源例：岩栗ランド

資源例：山本山



☆STEP３：クラブ会員による「ワークショップ」

現地での“よりみち資源”の街道診断を行い、ワークショップ形式による共通認識（意識の共有）を図った。結果は、以下の通りである。

★【よりみち資源とは何か？】

・一般的な観光マップに載ってない「もの（現場)」。

・地域住民だからこそ知っている「こと（物語り)」。

・このようなローカルな資源であるからこそ価値がある。

★【地域資源の診断結果】

・「中越の風景」は里山の良質な資源であるが、「風景」だけでは訪問は一度だけで終わってしまう。

・人との対話によって「風景」だけでなく、色々な「その他の資源」が見えてくる。

・それらの資源は、「現場」と「人」とのマッチングで「魅力ある物語り」が活きてくるもの。

★【着目点は？】

・中越には活用されていない小さな資源が、まだまだたくさんある。

・それらの資源の価値に関する認識が不足している。

・個人や狭い地域単体では情報発信（PR）しても限界がある。

★【取り組むべき活動の方向性は？】

◎埋没している「よりみち資源」の掘り起こし。(地域住民の意識付け)

◎「よりみち資源」の外へのアピール。(よりみちMAP→紙媒体情報・電子情報)

◎近隣地域が一体となった「広域連携」。(人のつながり促進)

３．今後の課題

本調査により、よりみちクラブにおける共通体験ならびに、共通認識を得ることができ、非常に有益な成果が得られた。本クラブとしては、この調査で得られた知見により、“よりみち資源”の活用による「来訪者と地域との交流」活動を具体化していくものである。

その際、以下に示す課題に取り組んでいかなければならない。

◆受け入れ態勢の整備

・よりみちクラブが取り組む活動趣旨を理解し、賛同して協力していただける“案内人（語り部)”の輪を広げていかなければならない。

・来訪者と地域資源や人とを如何につなげていくか？仕組みとして確立しなければならない。

◆資源の磨き上げ

・ローカルな資源に魅力を感じていただけるよう、よりみち資源の物語りを明確にし、資源に付加価値をつけるなど、磨き上げをしていく必要がある。

◆外部への発信

・資源の魅力づくりと受け入れ態勢が整備された後、それらを知らせる情報発信の仕組みを考え、実行していかなければならない。

◆評価システムづくり

・よりみち資源の魅力や、それらを伝える案内の的確性を把握し、PDCAサイクルを構築するため、来訪者からの客観的な評価(声)を聴取し、改善につなげる仕組みを構築していかなければならない。